

【ジブンゴト】

We're all different, we're all good,
we're friends.

【実践者】

氏 名	執行 稜	学校名	市川市立宮田小学校
担当教科等	総合的な学習の時間	対象学年（人数）	6 学年（5 9 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024 年 10 月 ～ 2 月（15 時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

総合的な学習の時間

02 単元名と単元目標

単元名：We're all different, we're all good, we're friends.

単元目標：

- 他国に住む人々の暮らしや文化を知り、国際的な知見を広げたり自国のよさを再認識したりする。
- 文化や考え方について伝え合うことで互いの「違い」を理解し、その「違い」を含めて他国を尊重することができる。
- 友だちや他国に住む子供たちと協働的に学びながら、異文化や違いを認め合うことで、共に地球で生きる仲間として他国や他者を大切にしようとする。

関連する学習指導要領上の目標：

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能 を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	・交流活動を通して、他国の特徴や文化について理解している。【概念的な知識の獲得】 ・他国と自国との違いを見つけ、それぞれに良さがあることに気付き、他国を尊重したり自国の文化の美しさを改めて感じたりすることができる。【探究的な学びの良さの理解】
---------	---

② 思考・判断・表現	・体験したり調べたりしたことをもとに課題を設定し見通しをもって学習の計画を立てている。【課題設定力】 ・目的を考えて、自分の力で目的に合った情報を収集している。【情報収集力】 ・収集した情報を整理・分析し、次の活動に生かしている。【情報活用能力】
③ 主体的に学習に取り組む態度	・課題解決のために、進んで探究活動に取り組もうとしている。【主体的に取り組む力】 ・学年の仲間や他国の子供たちなど様々な人の意見を共感的な姿勢で受け止め、協力して活動することができる。【協働して取り組む力】 ・学んだことを自分の将来の姿や社会貢献としての役割について考え、実践しようとする。【社会とつながる】

04 単元設定の理由・単元の意義

グローバル化が進む現代社会において、異なる文化や価値観を理解し、国際的な視野を持って行動できる人材を育てることは、未来を生きる子供たちにとって非常に重要である。現代の多くの課題（気候変動、貧困、紛争、難民問題、環境破壊など）は、一国のみで解決できるものではなく、国際的な協力が必要であり、国際理解教育を通じて、これらのグローバルな問題を理解し、解決に向けて協力する重要性を学ぶ必要がある。また、異なる文化、宗教、言語、習慣を持つ人々との共存が日常化している現代では、異文化への理解が欠かせない。国際理解教育は、他者の文化や背景を尊重する姿勢を養い、偏見や差別を減らし、共生社会を築く基盤となる。異文化に対する無理解や固定観念がもたらす誤解や対立を防ぎ、平和的な共存を目指すために、文化的多様性を理解する力が求められている。

さらに、異なる価値観や視点に触れることで、一つの見方にとらわれない柔軟な思考や多角的なものの見方を身につけることができる。そのために、様々な国や地域の背景を紹介し、狭い視野にとらわれないグローバルな思考を促し、今後の国際社会で活躍するための基盤を作りたい。

これらを踏まえ、本単元では、他国に住む人々の暮らしや文化を知ること、国際的な知見を広げたり、自国のよさを再認識したりし、文化や考え方について伝え合うことで互いの「違い」を理解し、その「違い」を含めて他国を尊重すること。友だちや他国に住む子供たちと協働的に学びながら、異文化や違いを認め合い、地球に生きる仲間として共に生きていこうとすること。また、他国で起きている諸問題に対し、自己の課題として捉える視点を持つことで、「地球市民」の一員として自己の存在を理解し、自分事として考えられる意欲・態度を育てていきたいと考え、本単元を設定した。

〈児童/生徒観〉

本学年は、学校や学級の中に、外国にルーツがあったり、他国で生活したりした児童が多数おり、日本以外の国について身近に感じている児童もいる。また、他教科の学習の中でも世界について取り扱うことがあったり、ニュースなどで情報を得たりして、日本以外の国、特に開発途上国について知る機会はある。しかし、それは知識や情報にとどまっており、自分に関係があることだと認識している児童はほとんどいない。他国についての興味関心をもっている児童も多い一方で、自国との違いを受け入れられずに笑ったり、怖がったりする児童もいる。多くの児童にとって、他国が身近な存在ではないという現状である。

〈指導観〉

体験活動や異文化交流を通じて学びを深めることで、持続可能で平和な国際社会の構築に貢献できることを知ること。また、自国の枠を超えて、グローバル社会の中で他国や他文化に対する理解、相互尊重

や共生していく必要性に気付くことを今回の学習材「国際理解教育」というテーマを通して感じてほしい。本時では、バングラデシュの子供たちが置かれている現状を知り、その問題について考えることで、世界の出来事に目を向けるきっかけとしたい。

そのために以下の三つについて、手立てを考えた。

①バングラデシュについて知ることで、他国に興味・関心を持つきっかけとしたい。そのために 自国とバングラデシュとの違いを知り、フォトランゲージ（写真やイラストから、そこに込められた意味や思いなどについてさまざまな角度から推察する学習活動の一つ）を通して、バングラデシュの子供の置かれている現状とその背景を考えさせる。

②協働的に学ぶことで、同じ問題に対する考えの違いを知り、自分なりの最適解を更新できるようにしていきたい。捉え方や考え方は無数にあることやそれらを知ったり、考えたりすることで価値観の再構築ができるようにしたい。

③本時の振り返りとして、ミライシードのオクリンクプラス機能を活用し、学級全体で共有したい。どんな意見や回答が多いかを単語で確認したり（ワードクラウド機能）、多様な考えを可視化し、友だちの意見や理解を聞いたりすることで、自分の学びを広げるとともに、相互に学び合うことができるようにしたい。

05 単元計画（全 15 時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1 ～ 3 本時	世界の国について知ろう	他国に住む人々の暮らしや文化を知ること、国際的な知見を広げたり、自国のよさを再認識したりし、文化や考え方について伝え合うことで互いの「違い」を理解し、その「違い」を含めて他国を尊重することができる。	・オリエンテーション ・「外国と自分たちの結びつき」ってなんだろう ・「バングラデシュ」ってどんな国？ ・「エジプト」ってどんな国？ ・海外で暮らしたことのある友達から聞いてみよう
	資料・教材など	バングラデシュの写真など	
4 ～ 13	エジプトで暮らす子どもたちと交流して、異文化・多文化への理解を深めよう	友だちや他国に住む子供たちと協働的に学びながら、異文化や違いを認め合い、地球で生きる仲間として共に生きていこうとすることができる。	・エジプトの友達に日本の良さを伝えよう（オンライン交流①） ・エジプトの友達から聞いたことと日本との共通点や疑問をまとめよう ・日本の暮らしや音楽など、自分たちの身近な生活について伝えたいことをまとめよう（オンライン交流②） ・宗教や国民性など、日本のパーソナルな文化について伝えたいことをまとめよう（オンライン交流③）

			・互いの国の話を聞いてどう感じたか、またそれを踏まえて今後どう生きていくのか伝えたいことをまとめよう（オンライン交流④）
	資料・教材など		
14 ～ 15	伝えよう ～未来に向かってできること～	他国で起きている諸問題に対し、自己の課題として捉える視点を持つことで、「地球市民」の一員として自己の存在を理解し、自分事として考えられる意欲・態度を育てるとともに、価値観の再構築を繰り返すことで、自分なりの最適解を更新し続けようとする。	・将来の国際社会がこうなっていたら…という視点でドリームマップを作ろう ・自分たちが知った世界との関わりや考えを発信しよう ・多文化共生社会について、考えをまとめよう
	資料・教材など		

06 本時の展開（2 時間目）

本時のねらい：

○バングラデシュの子供の現状を知り、それについて考えることができる。【思考・判断・表現】

○バングラデシュの暮らしや文化を通して、国際的な視野を持ち、異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていることについて理解する。 【知識・技能】

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (5分)	1 バングラディッシュについて知る ・バングラデシュに行けなかった教員の体験談を聞く。 ・識字率に着目させることで、日本との教育の違いを意識させる。 ・バングラディッシュの国土の面積、人口、言語について、自国との違いを知る。	◎バングラデシュの国旗から興味・関心を持てるようにする。 ◎自国とバングラデシュを比較することで、その違いからバングラデシュの特徴を探ることができるようにする。
展開 (10分)	2 フォトランゲージ ・町の様子を見ることで、人口の多さや人口密度世界一の現状を知る。 ・ストリートチルドレンの写真を見て、気付いたことや感じたことを発表する。 <予想される児童の反応> ・ごみを片付けている？集めている？ ・車を直している。仕事？手伝い？ ・服を着ていない。 ・裸足で歩いている。 ・袋を持って、何かを探している。	◎ストリートチルドレン(340万人)、児童労働に従事している(170万人)など数値でも捉えることができるようする。 ◎日本の小学生の人数(約605万人)と比較して考えることができるようにする。 ◎自分たちと同じ子供が今この時にこのような生

20 分	・みんな勉強をしていない。学校に行っていない。 3 学習問題について考える。	活を送っている現実を知る。(これが普通の日常であること)
	なぜこのような子供がいるのだろう ・なぜストリートチルドレンや児童労働に従事している子供がいるのか、要因を考える。(個人ワーク 3 分→グループワーク) ・学級全体で共有する。 <予想される児童の反応> ・家族がいらない→戦争やデモでいなくなってしまった。 ・人が多すぎて学校に入れない→人口と学校の数が追いついていない。国にお金がなく、学校が造れない。 ・貧困→学校に行くお金がない。 ・学校に行く必要がない。(義務教育がない) ・家庭的な問題→家族に事情があって仕事ができないから代わりに働いている。 <児童から出なければ紹介する> A 貧困→家族が子供を養うのが困難。 生き延びるため。 B 家庭内の問題 →家族を養うため。家庭内暴力、虐待、薬物依存など。 C 戦争や紛争→家族がいなくなった。 D 社会的サービスの不足 →学校が足りない。遠い。社会福祉や保護施設の不足。 E 教育機会の不足 →学校に行けない。識字率の低さ。働ける職種がない。 ・日本でも同じような問題があることや、なぜこのことがこんなに大きな問題になってしまうのかにも軽く触れることで、今後の課題となるようにする。 ・SDGs の目標との格差など現実とのギャップを知る。	◎グループを回り、問題の切り口やその背景について、「なぜそうなのか?」という視点をもてるように必要に応じて助言する。 ◎※「全然思いつかない」「分からない」というのも一つの解として認める。(知らないこと=もっと知りたいという思いに繋がれば良い) ◎別グループとのつながりや比較など、必要に応じて助言、板書してまとめる。 ◎実際の社会的背景については詳しく説明せず、児童が自発的に考えられる程度に留める。
まとめ (10 分)	4 振り返りをする ・今日の授業から考えたことをオクリンクプラスで共有する。 <予想される児童の反応> ・バングラデシュのことで知らないことが多かった。他の国はどうなのかも知りたい。 ・世界で起きている現実について考えることができた。 ・実際に他国の子と話したり、関わったりしてみたい。もっと見方や考え方が変わるかもしれない。 ・他国の文化や暮らしについて興味をもつことができた。他の国はどうなのか調べたい。 ・今日考えた問題は他国の問題だけではなく、自分たちの生活や文化を見直す機会になった。	◎4 5 分前の自分とどう変化があったか、もっと知りたいことはあるかなど考える視点を助言する。 ◎本時の学びが自分たちの将来や生活に繋がったり、結び付いたりしていることに気付くようにする。

	・他国だけではなく、自国の問題についても考えていきたい。 ・児童の言葉でまとめられるようにする →世界で起こっている様々な問題について興味関心を持つこと、目を向けることを少し意識して生活してほしい。そのことが「世界を知ること」のきっかけとなる。 5 次時の活動の見通しを持つ。 ・担任が体験した JICA での活動や自国とエジプトの異文化について知る。	
--	---	--

使用する資料・教材：

- ・ Bangladesh と日本を比較するための資料（パワーポイント）
- ・ Bangladesh の写真（フォトライター用）
- ・ タブレット（オクリンクプラス）

07 板書計画

なぜこのような子供がいるのか考えよう			グループ発表
フォト①	フォト②	フォト③	
Bangladesh と日本を比較した表			

08 評価規準に基づく本時の評価方法

- ①個人ワーク（付箋への書き出し）
- ②グループワーク（交流、発言）
- ③振り返り（オクリンクプラス）

09 学校外との連携（※該当のある場合）

E J S シビエルコーム校

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

授業をする前は、Bangladesh がどこにあるのか、どんな国なのかを知らなかった児童が45分後には「その国に住む子供たちの置かれている背景」について真剣に考え、協議することができた。また、

「自国以外の文化に興味を持った」「自分も将来いろんな国へ行って、いろんな人に出会ってみたい」など積極的に国際交流・理解に取り組んでいきたいという意欲をほとんどの児童がもつことができた。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

バングラデシュの国内研修の中で一番印象に残ったのは、バングラデシュにおける児童の在り方であった。児童労働、家庭崩壊、教育機会の不足など、自分たちとは大きく違う環境に生きる同世代の子供たちが存在していること、またそれを知ることによって自国以外への興味をもつ機会を作りたいと考えた。

12 苦労した点

自分たちとは異なる国土や文化で生きる子供たちの置かれている状況について、どのように「ジブンゴト」として捉え、考えさせるか、そのための教材や提示の仕方を一番考えた。知るだけでなく、「なぜこのような問題が起きているか、自分ならどうしたいか、どういう支援を必要とするか」という視点をもつことで、どこか知らない国の問題ではなく、「ジブンゴト」として問題意識をもてるようにした。

13 改善点

- ・時間が足りなかった。もっと個人で思考する時間や、グループワークの時間を設けたかった。
- ・グループ同士での交流や共有する時間を入れたほうがより学びや考えが深まったように思う。
- ・今回バングラデシュに関する授業は1単位時間しか取れなかったため、来年度は通年で国際理解の単元計画を立て、表面的な知識だけではなく、実際にバングラデシュの方と繋がる体験をさせたい。

14 成果が出た点

- ・「違い」や「多様性」を知り、それを理解しようとするきっかけを作ることができた。自国との違いやその背景を考えることで、異文化について考えることができた。
- ・協働的に学ぶことで、自分の考えを表現したり新しいアイデアを取り入れたりしながら、価値観の再構築をすることができた。交流活動をするなかで、「世界と自分との関わり」について自分なりの考えを持つことができた。

15 自由記述

今回初めて国際理解教育の単元計画を立てた。まずは私自身が世界の諸問題を「ジブンゴト」として捉えることで、子供たちに何をどう伝えたいのかを明確にすることができた。来年度以降も毎年国際理解の単元に取り組んでいきたい。